

「世界の救い主」(マタイ2:1~11)

私が今回とくに示されたのが1節の「東の方」という言葉です。ある牧師が言っておられますが、「ここで大切なのは場所の特定ではなく、聖書の中で東の方角、東の地というのがどういう風な意味で描かれているかということ」なのだと言われたのです。代表的なのが創世記3章の「失樂園」の物語ですが、アダムとエバが罪を犯して追放された場所は「エデンの東の方」だと書かれています。他にもたくさん出てきていますが、「聖書において東の方とは」神から遠く離れた場所であったり、神に背く者たちが住む場所として意味づけられているのです。

しかし、今回の箇所では「その東の方で、救い主誕生のしるしがあり、それを見出した外国人の学者たちがいた」を示しているのです。神の視点に立つならば「神から遠く離れた東の場所で、しかも神の御心を尋ね求めて生きるのとはある意味真逆の「星占い」のスペシャリストだった学者たちに、敢えて「新しい時代を告げる、世界の救い主の誕生」を告げられたのだ…と捉えることができます。

このことを私たち自身にも当てはめて考えてみましょう。自分の心の内側には「東の部分」つまり「神から離れて生きようとする自分」に気づくところはないでしょうか？私は先ほどお話した通り「自分の心の中に東の部分があること」そして「自分が東の方に住む者だ」と気づかされません。

でも…そのようなわたしたちに、神は救い主を送って下さっただけでなく、神自ら「あなたたちのために救い主を送ったのだよ」と語り掛けて下さるのです。クリスマスを漠然と過ごすのではなく「世界のすべての人を救うために、キリストがこの世におくられたこと、それは何より自分自身を救うためなのだ」ということを改めて、感じて今年のクリスマスを過ごしましょう。(終)